

e シンキング（ひとづくり広域連合政策情報メルマガ）第 39 号  
2008 / 1 / 15 発行（月 1 回発行）

各職員に、転送または配布をお願いします。

## 【 目 次 】

今月のトピックス

「ふるさと納税」

広域連合からのお知らせ

《参加者募集》

平成 19 年度第 2 回行政課題研究セミナー（すてっぷあっぷ講座）開催  
テーマ『ニュータウンに見るこれからの地域づくり』

私の選んだこの一冊

「授業の出前、いらんかね。」

政策イベント情報（投稿）

「Non - Purpose ~ 首都圏の WA」からのお知らせ

今月のトピックス

・・・ふるさと納税・・・

昨年 12 月 13 日、政府与党の税制調査会は平成 20 年度の与党税制改正大綱をまとめました。次年度税制改正の焦点の一つとして、都市と地方の税収格差の解消が挙げられていましたが、この点については「税源の偏在が小さく、税収が安定的な地方税体系を構築する」とし、都道府県の法人事業税の一部を自治体間で配分する地方法人特別税の創設とともに、出身地などの自治体に住民税の一部を寄付できる、ふるさと納税制度の導入が明記されています。

このふるさと納税は、昨年 6 月から総務省主催の「ふるさと納税研究会」にて、計 9 回にわたる会合で検討され、同年 10 月 5 日に取りまとめた研究会報告書の主旨を踏まえ、今回の税制改正大綱に盛り込まれたものです。この研究会では、ふるさと納税の意義について、納税者の選択、ふるさととの大切

さ、自治意識の進化を挙げ、これらにより我が国の各地域に活力が生まれることを期待するとまとめられています。

大綱の中では、ふるさと納税制度の導入について「『ふるさと』に対し貢献又は応援をしたいという納税者の思いを実現する観点から、個人住民税の地方公共団体に対する寄附金税制を大幅に拡充し、所得税と合わせて一定限度まで全額を控除する仕組みを導入する」としています。これまで、ふるさと納税については納付先の選択を可能とするなど税を分割する仕組みも検討されてきましたが、最終的には現在の寄附金税制を応用する仕組みとなりました。

現在も、寄附金に対する税の優遇措置がありますが、ふるさと納税では、現行の所得控除から、直接税額控除（住民税所得割の1割を上限）できる仕組みへ、また控除できる金額の最低基準の引き下げ（現行10万円→5千円）といった内容となり、制度の拡充が図られています。さらに、申告手続きについても納税者の利便を図るため、簡易な方法により行うことができるよう所要の措置を講じていくこととされ、平成21年度分の個人住民税より適用すると記されています。（B）

---

## 広域連合からのお知らせ

平成19年度第2回行政課題研究セミナー（すてっぷあっぷ講座）のご案内

彩の国さいたま人づくり広域連合では、毎年、自治体が直面する政策課題について問題点を明らかにし、今後の方向性や解決策を見出すために、有識者の講演やパネルディスカッションなどによる、行政課題研究セミナー（すてっぷあっぷ講座）を実施しております。今年度第2回目は、ニュータウン問題を取り上げ、埼玉県地域づくりを考えるセミナーを企画しました。皆様のご参加をお待ちしております。

日 時： 平成20年2月18日（月） 13：20～16：30

会 場： プリランテ武蔵野 2階（サファイア）

交 通： JRさいたま新都心駅から徒歩約5分

内 容： テーマ『ニュータウンに見るこれからの地域づくり』

### （1）基調講義

テーマ『ニュータウンから考える活力ある地域社会』

中央大学大学院公共政策研究科委員長

多摩ニュータウン学会会長 細野 助博 氏

### （2）パネル・ディスカッション

テーマ『ニュータウンに見るこれからの地域づくり』

コーディネーター：中央大学大学院公共政策研究科委員長  
多摩ニュータウン学会会長 細野 助博 氏

パネリスト：財団法人埼玉りそな産業協力財団調査部長  
島崎 光男 氏  
上内（わし宮団地）地区コミュニティ推進協議会会長  
石川 彰三 氏  
NPO法人グリーンオフィスさやま代表理事  
毛塚 宏 氏

締切：平成20年2月6日（水） E-mailまたはFAX

詳しくは、こちらから（申込様式もあります）

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/06/H19/H1902annai.htm>

（ 駐車場のご用意はございませんので、公共交通機関にてお越しください）

-----  
私の選んだこの一冊

「授業の出前、いらんかね。」（山本純士 / 文春新書）

学ぶとは何か？教えるとは何か？非常に興味深いテーマである。

死期が迫りながらも、ランドセルを手離さなかった女の子。片足を切断した野球好きの男の子 - 長期入院を強いられた子どもたちに授業を届ける、自称・出前教師が20年間を振り返る。

病気や事故で長く入院する子どもたちを対象とした学校教育がある。業界用語では「病弱教育」と呼ばれる。著者は義務教育年齢の子どもたちが長期入院すると、その病院まで出向いて授業をする『出前教師』である。『出前教師』とは、著者が付けた呼び名で、正式には「病院訪問教育」担当教員である。

「病弱教育」は病気の子どもたちを対象にした教育の形態で、比較的良好に知られているのが「院内学級」である。こちらは病院内に専用の教室があり、教師が常駐して授業を実施する。しかし、すべての病院にあるわけではない。そんなときが『出前教師』の出番となる。「病院訪問教育」は公教育であり、授業料はからない。授業は病室のほか、医師や看護師用の院内図書室といった場所を使う。この病院訪問教育を受けるためには、特別支援学校へ転籍をしなければならないが、籍を移すことにためらう保護者や本人もおり、現状では本人や父母が「病院訪問教育」を受けないと言えば、その意志を尊重し、転籍をすすめることはない。

「病気の治療をするために入院をしているのに、勉強なんかできるのか」。そんな素朴な疑問に、ある医師の言葉を著者は紹介する。「医療の進歩により難病も治る時代になってきましたが、そのために治療活動が長期化する傾向にあります。病気の子どもたちは、一般社会から隔絶された環境のなかで長い時

間を過ぎさなければなりません。そうしたなか、病院内において教育を行うことは、子どもの内面の成長を支え続けるという意義があり、医療側にとっては、スムーズに治療を行う上で大きなサポートになっています。子どもたちとその保護者にとって、院内学級や病院訪問教育で学ぶということは、病気が治った後の日々が具体的に見えてくるという意味もあります。」

著者も基本的にはこの医師の同じ考えを持ちながら、教育の限界について、「結局のところ教師などというものは、子どもたちの内なる力に依拠しつつ、彼や彼女らに寄り添うことしかできないのだ。」と述べている。

実はこの本を読むまで「病院訪問教育」制度について全く知らなかった。院内学級は知っていても、おそらく多くの方がこの制度について知らないのではないか。子どもは何事についても好奇心が強く、学ぶことに対して貪欲な生き物である。私たち大人が、そんな子どもたちの成長を支え、誰もが学べる環境を整えていくには何ができるか、本気で考えさせられる本であった。病気の子どもたち、またその保護者の言葉は、実に心に訴えるものがあり、ぜひ皆様に読んでいただきたい。(takeyan)

---

#### 政策イベント情報（投稿）

「Non - Purpose ~ 首都圏のWA」では、公を担うキーパーソン創出の場づくり 公を担うもの同士のネットワークづくりの場 ソーシャルアクションを起こす場づくりを目的として、首都圏の20代の自治体職員を中心に毎月1回民間企業、NPOの職員、学生の参加者も交えて講演やグループワーク、フィールドワークなどを行っています。

第27回目を迎える今回は秩父市において開催、埼玉県産業労働部副部長の阿部芳文氏をゲストにお迎えします。当日は同氏のご講演、秩父みやのかわ商店街のフィールドワークを通して、秩父地域の商店街をベースとした街づくりやコミュニティに関する見識を深め、今後個々人が地域においてどう行動していくべきなのかを考えていきます。

日 時 平成20年1月26日(土) 11:00~17:00

集合場所 西武線西武秩父駅改札前(集合時間10:50)

参加費 500円(資料代)

定 員 20名(先着順)

URL: <http://www.geocities.jp/nonpasyutoken/framepage9.html>

参加を希望若しくはご質問のある方は下記のURLよりお申し込みください。なお、会場の都合により、定員を持って締切とさせていただきます。ご了承ください。(埼玉県教育局教育総務部総務課 高橋 洋興)

=====

ご意見・掲載希望

今月号のeシンキングはいかがでしたか？ご意見・ご感想がありましたら下記担当までお寄せください。また、各コーナーでは皆様からの参加レポートなどの情報提供を随時募集しています。「これは記事になるかな？」というものがあれば、お気軽にご連絡ください。

[ eシンキング / 毎月15日発行 ]

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合 政策管理部（河原塚・小澤）

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2-24-1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp>

E-Mail: [jinzai03@hitozukuri.or.jp](mailto:jinzai03@hitozukuri.or.jp)

=====